

くやしさをのむこうがわ

早島町立早島小学校

三年生 平松 聖

ビー。

体育館に大きなブザー音がなりひびくと、わたしはくやしい気持ちでいっぱいになりました。

「よくがんばったよ。気持ちきりかえて、つぎがんばろう。」
と、コーチはわたしたち一人ひとりに声をかけてくれましたが、わたしの中に出てきたくやしさは、なかなかおさまりませんでした。

はじめて出られたバスケットボールの公式せん。きんちようして、いつも通りのプレーはできなかつたけれど、しあいのコートに立てたうれしさと負けたくやしきで、わたしの心はいっぱいでした。だけど、しあいの帰り道に感じたくやしい気持ちは、しあいに負けた時に感じたくやしきと少しちがいました。この変なかんかくはなんだろう。しあいに負けてくやしいはずなのに、何かちがいます。

二年生からバスケットボールを習い始めたわたしは、三年生になって、しあいに出来るAチームで練習をするようになりました。少しでも上手になるために、週五日、練習に通っています。だけど、わたしはみんなにくらべて身長もひくいし、ドリブルも下手。シュートもあせてうつと外してしまいます。はじめての公式せんも、出させてもらえたのは数分間だけで、ベンチでおうえんしている時間のほうが何倍も長くなっていました。

しあいがおわって家に帰ると、お母さんが、
「はじめてのしあい、どうだった？楽しかった？」

と、聞いてきました。でも、わたしは、

「もっとしあいに出たかった。もっとバスケット上手になりたい。」
という言葉といっしょに、自分でもびっくりするぐらい、たくさんなみだが出てきました。その時、しあい帰りに感じたくやしさは、思い通りにプレーができなかつたくやしきだとはじめて気がつきました。そして、お母さんはわたしの気持ちを知って、

「そのくやしい気持ちは、大きく成長できるチャンス。だから、これから練習をもっとがんばらないとね。」

とはげましてくれました。わたしはこのチャンスをぜったいのがしたらだめだと思ったので、その日から、家でも自主練習をすることにきめました。そして、すぐにとなりに住むおじいちゃんのところに行っ

て、

「バスケ、もっと上手になりたいから、わたしに教えてください。」
と、おじいちゃんにおねがいしました。すると、おじいちゃんはびつくりしていたけれど、

「よおし、すぐに練習開始だ！」

と言って、ボールを持って外に出て、二人で練習をはじめました。わたしのおじいちゃんはずっと高校のバスケットボールチームでかんとくをしていたので、練習はきびしいけれど、わかりやすく教えてくれます。たとえば、わたしが苦手なドリブルは、こしの高さをひくくするようによく練習すること、シュートはひじの曲げのばしや手首のスナップの使い方に気をつけてボールをなげること、家にゴールがなくても、電しん柱をゴールに見立てて練習をすれば、どこでもシュート練習ができることなど、おじいちゃんがお手本を見せながら、わかりやすくたくさんのことを教えてくれました。そして、いろんなくふうをしながら練習をつづけていると、少しずつじしんを持ってできることがふえていきました。

この冬休み、新チームになってはじめて練習じあいをすることになりました。体育館では、お父さんとお母さん、おじいちゃんも見守ってくれます。しあいのコートに立つと、だいじょうぶかなという不安な気持ちにおそわれました。だけど、家族みんながおうえんしてくれ

る声が聞こえてくると、ふしぎと心がおちついてきました。すると、ドリブルも前よりしつかりすることができたし、今までしあいできめられなかったシュートも、たくさんきめることができました。シュートがきまった時に、おじいちゃんを見ると、うれしそうにうなずいてよろこんでくれていたので、たくさん練習をがんばってよかったなと思いました。

しあいのあと、たくさんの人に、

「前よりも上手になってるから、びつくりしたよ。練習がんばってるんだね。」

と、声をかけてもらってうれしかったし、あきらめずに練習をつづけてきて本当によかったなと思いました。これからたくさん練習をして、もっとかつやくできるバスケットボールせん手になりたいと思います。

「よおし、今日も練習するぞ！」

がんばればがんばっただけ、くやしさをむこうがわには、成長した自分があることをしんじて、わたしは今日もおじいちゃんといっしょに練習をつづけていきます。